

入庁半年で所長となって



岡山県備前保健所長
岩瀬 敏秀

平成17年岡山大学卒業。24年から岡山大学大学院地域医療人材育成講座、25年から岡山県地域医療支援センター岡山大学支部の助教として、地域医療教育および地域科学生・医師のキャリア支援に携わる。令和3年4月に岡山県庁に入庁し、同年10月から現職。

令和2年度末、5保健所を抱える岡山県において、保健所長4名のうち3名が退職しました。令和3年度から保健所長2名で兼務する体制となり、議会、市長会からも保健所長の確保を求められました。岡山県の公衆衛生行政の行方やいかに？

転機

令和2年度もそろそろ終わろうとする頃、携帯電話が震えしました。則安参与(当時)。令和4年3月現在・保健医療統括監兼備中保健所長兼備北保健所長兼美作保健所長)からでした。県へ来ないかとの勧誘に対して、地域枠医師のキャリア支援を続けたいといつも

返答で終わるかと思いきや、「当該業務を持ったまま県で働けるか、医療推進課長と協議してほしい」と言われました。初めて聞いた言葉に驚き、課長に電話をしたところ、「今日は大学ですか。伺います」と大学まで飛んで来られま

県庁

した。そこで兼務の実現可能性についての説明と県の危機的状況を開き、衝撃を受けました。キャリア支援担当者が代わることは望ましくないものの、おおむね円滑に地域枠制度の運用が可能な状況となっていたこともあり、妻と相談の上でその日の内に転職を決意しました。

県庁には嘱託産業医として勤めていましたし、地域医療教育および地域枠学生・医師のキャリア支援を行う教員として医療推進課の面々と一緒に仕事をしていましたので、まったく知らない間柄では

を保つことは医療提供体制の確保において極めて重要であり、岡山の環境は行政初心者である身には大変ありがたかったです。

研修生同士のつながりは本当にありがたいもので、執筆時点で7回のオンライン意見交換会が開催されており、交流を深めるとともに仕事の悩みを相談することができています。

保健所へ

7月12日、研修の翌週からは備前保健所にて勤務し、所長業務を含めた保健所業務全般について働きながら学ぶことになり、週2回来所する則安所長をはじめとする保健所の面々から、行政のイロハを優しく教わりました。また、県OBで保健所長を務めた發坂先生が臨時で来所され、所長に必要な心構え等について助言いただき、

9月以降は猛威を振るったデルタも落ち着いてきて、新型コロナウイルス感染症以外の課題と向き合う時間が増えました。延期されていたさまざまな会議もWebや対面で再開され、保健所に期待される幅広い役割を肌で感じます。9月半ば、西嶋保健福祉部長と面

ありがたかったです。喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対応において、岡山県では入院調整を県庁の新型コロナウイルス感染症対策室に一元化していたことも幸いでした。行政、医師会、大学、医療機関のそれぞれが良好な間柄

ありませんでした。とはいうものの、それまで裁量労働でマイペーパーに働いていたため、公務員としてキビキビ働く自分の姿にはピンときませんでした。

速やかに保健医療科学院での研修を受けてほしいと言われ、県の採用書類に加えて保健医療科学院の入学書類と試験勉強を並行して準備しました。星とひよこが頭の周囲を回っているような感覚の中で県の採用面接、保健医療科学院のオンライン入試・面接を受け、無事に採用と研修が決まってからやっと一安心。試験は精神衛生に良くないですね。

入庁と研修

令和3年4月1日、川沿いの桜並木を眺めながら辞令交付式の会場に向かいました。保健福祉部医療推進課地域医療体制整備班に配属となり、各種手続き、パソコン

談し、適切な時期に保健所長となる方針を確認しました。保健所長としての職務を全うする自信はありませんでしたが、最善を尽くすしかない状況だと認識して入庁したのですから覚悟を決めるしかありません。9月下旬に、10月1日付で所長となる内示を頂きました。

所長就任とこれから

10月、所長に就任すると、景色が変わりました。まず、日程を自分で管理できません。後から連絡は来るのですが、知らないうちに次々と予定が入ってきます。また、生まれて初めてあいさつ回りを行いました。関係機関との連携の重要性について頭では理解していたものの、多くの関係者と名刺交換をして自己紹介をするうちに顔が筋肉痛になりました。皆さん、兼務ではない保健所長を喜ばれると同時に、保健所の窮状を心配してくださったことが印象に残っています。盛大な歓迎会は開かれませんが、第5波の苦労をねぎらう意味も兼ねてささやかな昼食会が開催され、おいしいお弁当を頂きました。

景色が変わっても、やるべきことは変わりません。まん延防止等重点措置解除以降も再拡大が起きない比較的平和な時間の中、次の波への備え、オミクロンへの対応準備だけでなく、新型コロナウイルス感染症以外の公衆衛生上の課題に取り組み日々です。

の設定、地域医療支援センターの定例会での協議等をしていると、すぐに研修日がやって来ました。

3年度の保健福祉行政管理分野分割前期研修は集合とオンラインを組み合わせた混合型研修でした。北は北海道、南は沖縄県まで、30代から60代までの18名が集まり、共に学びながら、グループワークや講義前後の雑談を通じて徐々に互いの人柄を把握していく感じ、なんだか懐かしいです。コロナ禍というタイミングも影響しているのか、皆さん前向きな方ばかりで、和気あいあいとした雰囲気です。2週間半の研修の後、地元に戻って以降はZoomでのオンライン研修です。保健所勤務中の先生方は研修だけでなく第4波にも対応されてお疲れのご様子だった一方で、個人的には子育て中ということもあって地元にながらの研修はありがた

現在の健康を守る・支えるという仕事は地味で、目立たず、難しさの割に感謝されることはありません。しかしながら、目の前にいない住民にアプローチできる数少ない立場であり、縁の下の力持ちとして地道な活動をいとわない方にはとてもやりがいのある仕事です。個人的には人生で最も仕事を楽しいと感じています。

現在、県を挙げて、一人でも多くの優秀な公衆衛生医の採用と、住民のために意欲を持って楽しく働きつつも充実した私生活を過ごせる体制の整備を進めているところです。私自身も、学生実習等の機会を捉え、公衆衛生に関心のあ